

生協10の基本ケア

その5

「生協10の基本ケア」とは、生協の福祉事業において、その人自身が生活の質(QOL)を高めることを最終目的としたケアで、10項目の方針があります。今回は第6章「座って会話をする」、第7章「町内におでかけをする」について紹介します。

座って会話をする

座って会話をするものの目的と効果

「座って会話をする」は認知症の理解とケアを目的とする章です。高齢者や認知症の方と接するときに、目線を合わせて話すことを指しています。

- 目線を合わせることで相手に威圧感を与えません。
- 高齢者や認知症の方は視野が狭くなる、認知機能の衰えによって近くのものに気付きにくくなるという特徴があります。そのような認知機能の変化に合わせ、視線をしっかりとつかみ、意思疎通をすることが大切です。

コープいしかわの福祉サービスでは

ベッドで横になっていたり、座っていたりする高齢者・認知症の方に話しかけるときは、なるべく目線を合わせて話す姿勢を心がけるようにしています。また、認知症の方は不安や疎外感を感じやすく、冷たい態度にも敏感です。「あなたの味方ですよ」という気持ちを込めてほほえみかけるようにしています。ゆっくりと丁寧に話しかけ、ときには手や肩などにやさしく触れるスキンシップも心がけています。



福祉事業部 執行役員
木倉 正規さん

町内におでかけをする

町内におでかけをするものの目的と効果

町内におでかけをして、社会性を取り戻すことを目的としています。家や施設の中だけの生活ではストレスがたまってきます。町内におでかけすることは生活リハビリの達成に大きな効果を発揮します。

コープいしかわの福祉サービスでは

1 自立意欲の回復

家だけの生活ではすべての機能が衰えてしまいます。下肢の筋力づくりのリハビリとトイレでの排泄ができれば、でかけることができます。おでかけすることによって自立意欲が回復します。



2 買物、外出で生活の再建をする

買物に行くことが生活習慣だった方から役割を奪うと、認知症が進んだり外にでかける機会が減って身体の機能が低下したりします。買物に行くことは、生活を取り戻す重要なケアです。



3 地域につながりと居場所ができる

地域にでかければ顔なじみになります。地域とのつながりをつくることで会話も増え、落ち着ける居場所ができます。

